

H27. 2. 18
福島民友2面

汚染水「海洋放出視野に」

IAEA調査団 経産副大臣に報告書素案

東京電力福島第1原発の廃炉作業を検証するため来日中の国際原子力機関（IAEA）の調査団は17日、福島県内各地を巡る汚染水について「持続可能な対策を講じる必要が課題だ」とする報告書の素案をまとめ、

記者会見するファン・カルロス・レンティッホ団長は17日午後、東京・内幸町のフォーリン・プレスセンターで記者会見し、汚染水によるリスクの低減に向けて「管理した上で海洋放出することの安全性を向上」



「海洋放出を含め、あらゆる方法を検討してほしい」と助言した。IAEA調査団による第1原発廃炉作業の検証は3月末日に正式な報告書を公表する。

H27. 2. 18
日経新聞朝刊38面

IAEA調査団が報告書
福島第1の廃炉作業
東京電力福島第1原子力発電所の廃炉作業の検証で来日していた国際原子力機関（IAEA）の調査団は17日、報告書（暫定版）をまとめた。

レンティッホ団長は記者会見で、多核種除去装置（ALPS）で処理できないトリチウムについて「海洋放出も選択肢の一つ」と指摘。「科学的な検討をすれば、環境や人に与える影響がほとんどない」と述べ、地元住民の理解を得ながら進めることが大切だとした。

汚染水対策は
海洋放出視野に
IAEA調査団長
東京電力福島第1原発の廃炉作業を検証するため来日中の国際原子力機関（IAEA）の調査団は17日、福島県内各地を巡る汚染水について「持続可能な対策を検討することが課

題だ」とする報告書の素案をまとめ、高木誠一郎経産副大臣に手渡した。

ファン・カルロス・レンティッホ団長は東京電力記者会見し、汚染水によるリスクの低減に向けて「管理した上で海洋放出することの安全性を向上」

H27. 2. 18
福島民報2面

た。浄化設備で処理後も汚染水にはトリチウムが残るが「人体への影響は小さい」とした。

その上で日本政府や東電には「海洋放出を含め、あらゆる方法を検討してほしい」と助言した。

IAEA調査団による第1原発廃炉作業の検証は三回目。今回は九十七日の日程で、第一原発を視察したほか関係者からの聞き取りを実施した。三月末に正式な報告書を公表する。

H27. 2. 18
読売新聞朝刊37面

「汚染水浄化後放出」
政府に報告書を提出
IAEA調査団
東京電力福島第1原子力

調査団長のファン・カルロス・レンティッホ氏（IAEA核燃料サイクル・廃棄物技術部長）は記者会見し、「（海洋放出は）世界中の原発で通行行われている。

住民の理解を得て行うべきだ」と述べた。調査は今回で3回目。一昨年の前回調査でも、処理水に含まれる放射性物質のトリチウム濃度を国の基準値以下に薄めて海洋放出することを検討するよう、政府と東電に助言した。

日本の原子力規制委員会 は、海洋放出の目標時期を「2017年以降」と設定している。